

第 5 2 3 回遊佐町議会定例会一般質問通告書

平成 3 0 年 3 月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	2 番 松永 裕美 (一問一答)	1. 高齢者の独居率上昇に対応するための当町の対策について	<p>①当町 6 地区における高齢者一人暮らし世帯の現在の実態と、今後一人暮らし世帯増加が予測される上での対応策は。</p> <p>②上記①を踏まえて、生き生き輝く遊佐町を推進していく為にも、「町民憲章」に今一度フォーカスし、微細な点でも改善し啓蒙活動に力を注ぐ時期では。</p> <p>③ネガティブなイメージを払拭する為にも「高齢者」という呼称を当町オリジナルなものに変える施策は。</p>
		2. 当町の重要資源である温泉施設「あぽん」の経営状況と今後の有効活用について	<p>①過去 3 年間の施設利用者実績と経常利益の推移は。</p> <p>②施設設備の今後の改修計画は。P R 活動は。</p> <p>③利用者のマナー向上のための取り組みは。(ミニ講座の開催やエチケットノートの発行等)</p>
		3. 水の事故から生命を守る「ういてまて」教室の開催についての提案	<p>①当町小学校での「ういてまて」教室の平成 2 9 年度取り組み実績と平成 3 0 年度の予定は。</p> <p>②水難学会のプログラムに基づいた「助けられる側」「助ける側」の教室、親子教室開催の推進について。</p>
2	5 番 土門 勝子 (一問一答)	1. 中学校入学時の支援を考えては	<p>子育て世代、0 才から義務教育、中学卒業までの 1 5 年間で保護者が一番、経済的・心理的不安なのは、子どもが中学入学を控えたこの時期と思われます。入学時にいかに多額の出費と中学への壁に四苦八苦している。</p> <p>子ども達はもちろん、子育て世代にとって、安心して不安のない入学できる環境を整える町の取り組みは。</p>
		2. 町の生活系ごみの状況について	<p>平成 2 6 年度の一般廃棄物の搬入量は、1 日ひとりあたり 7 5 6 g で県内 3 5 市町村において一番多い量を記録以来、どの様な減量対策を取ってきたのか、その成果と今後の取り組みを伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
3	1 1 番 齋藤 弥志夫 (一問一答)	1. 水道料金未納 ＝給水停止は常識	水道料金の未納は遊佐町では深刻な状況になっている。現年度分と過年度分の未収金の額と収納率を伺う。未収金回収には役場の職員は大変苦勞している。劇的に徴収率を向上させるには根本的に徴収のシステムを変える必要がある。酒田市水道部と鶴岡市上下水道部は、料金請求から滞納整理まで委託しているが、そのために極めて効率的に業務をこなしているし、過年度分の収納率は99.98%という内容である。料金請求から滞納整理までその道のプロに委託するのも役場の職員の素人業務を解消する方法である。
		2. インバウンド と免税店の取り組 み	2017年のインバウンド数は2,869万人で、2020年にインバウンド数4,000万人の基本計画は達成可能な勢いである。政府の掲げる2030年の訪日観光客数6,000万人の目標を突破することも可能なようだ。インバウンドと密接な関係があるのが免税店である。免税店が増えることによる効果と免税店になるメリットは絶大なものがある。インバウンドと免税店についての町の取り組みを伺う。
4	3 番 菅原 和幸 (一問一答)	1. 健康意識の向 上対策について	<p>第8次遊佐町振興計画の福祉関連の目標に、「共に寄り添い、助け合い、幸せを実感できるまちづくり」を掲げるなかで、健康・福祉に係る諸計画について、次期にむけた策定が進められている。</p> <p>昨年、県が行ったアンケートの「地域で暮らし続けて行くために重要なことは」との設問では、「医療」と「介護」の割合が高かった。</p> <p>本町の男性の平均寿命は、県内では下位にあり健康寿命の延伸を含めた対策は、急務と考える。</p> <p>各まち協が実施する生涯学習事業等と連携した「遊佐の特性を生かした地域包括ケアシステム」が推進されているが、介護ニーズ面での課題はないか。また、学校での「健康教育」について伺う。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
5	4 番 筒井 義昭 (一問一答)	1. 産直施設「八福神」の施設活用に向けた計画の進捗状況は	昨年4月に閉鎖した複合型産直施設「え〜こや八福神」の施設活用について、6月定例議会において町として施設を活用していく方法で関係機関・団体と協議して行きたいとの答弁であったが、協議・計画の進捗状況を伺う。
		2. コミュニティ・スクールの立ち上げと、学校適正審議会の開設が同時期に進められるが整合性と調整はいかに図られるのか	町では平成30年度より小中学校全校でのコミュニティ・スクールが取り込まれる。学校運営協議会を設置し「地域とともにある学校づくり」を目指すとされているが、一方では今後の小中学校の適正な規模に関して審議する適正整備審議会が設置されている。 地域性を生かした学校運営という質の議論と、学校の規模という量が同時期に議論され進行されていることに戸惑いを感じている住民や保護者が多いのではないかと。2つの整合性と調整をいかに図りながら、地域に根差した教育を進められるのかを伺う。
6	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 臂曲地区採石事業裁判の町民への状況説明と、町民と一丸となって取り組む機運の醸成は十分か	臂曲地区の採石事業を巡る裁判が始まって、間もなく1年が経とうとしている。この裁判では行政事務手続きの当否が第一義的に争われているものの、一方では、遊佐町と鳥海山や湧水との関わり方の根源が問われているとも言える。 そこで、なじみの薄い裁判実務や裁判用語であったとしても、それを分かりやすく町民に伝え情報を共有した上で、町民と一丸となって裁判に取り組む機運の醸成を図ることが極めて重要になる。 しかしながらこの裁判に関し、未だに町民誰も聞ける形での説明会は開催されていない。また、2月1日付の町の広報誌に記事があるが、その内容は裁判用語をそのまま用いたかなり抽象的なもので、読み手にはほとんど伝わらなかったのではないだろうか。 町は昨年9月議会の答弁で「町民の不安を払拭することは、なかなか難しいと考えているが、その努力を惜しまず、今後も町民に対し丁寧な説明をし、一丸となって裁判に臨んでいきたい」（『議会だより』138号）としている。名実ともに行うべきだ。

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
7	7 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. 遊佐版ご当地ナンバープレートを	<p>2020オリンピックを盛り上げるためのエンブレムの入ったナンバープレートも見かけるようになった。</p> <p>県でも、内陸版・庄内版のご当地プレートの導入を計画している。</p> <p>町で発行する、原付や農耕用小型特殊のナンバープレートを遊佐らしいデザインに変えてみては。</p>
		2. PAT計画の進み具合は	<p>丸子地内IC予定地への工事車両の出入りも多くなって来ているが、スーパー道の駅としてのPAT構想が示されないままだ。鳥海山・飛鳥ジオパークの拠点、農水産物の発信拠点として準備しておくことは多いと思うが。</p>